

国語科（国語総合）学習指導案

岡山県立笠岡高等学校 普通科 1年2組
 実施日時 平成17年11月8日（火） 第4校時（11時25分～12時10分）
 使用教室（1年2組教室） 指導者 教諭；藤井純子

| | | | |
|---------------|---|---|---------------------------------|
| 単元 | 「評論 -自然と人間」 「探求 国語総合（現代文・表現編）」桐原書店 | | |
| 目標 | 論理展開をたどりながら筆者のものの見方を正確に読みとろうとする。（読む能力） 筆者独自の発想に注目し、既成の常識や概念を見つめ直し、社会や人間の直面するさまざまな問題に視野を広げ、考える力を身につける。（関心・意欲・態度） 文章を読んで分かったこと、考えたことを文章にする。（書く能力）（知識・理解） | | |
| 指導上の立場 | <p>教材観 著者は「ゾウの時間ネズミの時間」で知られる生物学者で、様々な動物の世界の考察を通して、ヒトという生き物を相対化する視点から文明を捉え直しいく数々の著作で注目されている。本教材においても「代謝時間」という新しい視点を通して、絶対的なものとされる時間も、実はヒトや他の動物、又年齢によって異なる相対的なもので、絶対時間という概念に縛られた人間疎外の現状を問題提起した文章である。本校ではACT（総合的な学習の時間）の科学分野のテーマ図書にもなっているが、単に科学的な視野を広めるだけでなく、人間の生き方や社会の在り方を考える契機ともなる教材でもある。また著者の発想や多角的なものの見方・考え方をすることで、21世紀という未知の世界の新しい枠組みを考える一歩とさせたい。</p> <p>生徒観 まじめだが積極的に自分の意見を述べる生徒は少ないので、初発の内容理解を文章にして提出させた。予習は予習プリントによりおおまかにはできている。評論の学習は、「評論」に続き2度目だが、生徒にとってはやや堅苦しいイメージがあると思われる。しかし、社会や人間を取り巻く諸問題について、いろいろな人の考えに触れて、自分の生き方を模索しようとする積極的な姿勢は感じられる。</p> <p>指導観 学力の向上という研究テーマに基づき、現代文においてはややもすると軽視されがちな予習を課し、主体的に問題意識を持って授業に臨むよう指導している。初発の理解を文章化させ、授業での正確で、分析的な読解を通して、理解がどのように深まったかが学習者自身に感じられるような指導を心がけている。ものの見方の深まりは、今後、生徒自身が新たな課題を見つけ、問題解決してゆく力につながるはずである。今後も学力を向上させる指導や教材を工夫をしていきたい。</p> | | |
| 指導計画 | 全4時間扱い 第1時 文章の大まかな内容を全文通読して捉える。初発の内容理解や感想、疑問点を文章化する。 第2時 一・二段落の「長さ」「時間」の測り方、測る単位について理解する。 第3時 「測り手」を基準にした単位としての「代謝時間」の考え方を理解する。人間の年齢による代謝時間の違い、時間の感じ方の違いを認識する。 第4時（本時） 年齢に応じた多様な時間や価値観を理解し、さまざまな世界観、価値観に対する寛容な態度のあり方を考える。 | | |
| 評価 | 関心・意欲・態度 | 読む能力・書く能力 | 知識・理解 |
| | テーマに興味を示し、積極的に理解したり、表現したりしようとする。 テーマと自分自身の生き方を照らし合わせながら積極的に考えようとする。 | 論理展開を的確に捉え、テーマを考えながら読みとっている。 理解したこと・疑問に思うことを的確に表現することができる。 | 抽象的な概念をあらゆる語句や考え方について調べ、理解していく。 |

本 時 案 （第4時）

| | | | |
|--------------|---|--|---|
| 本時の目標 | <p>「代謝時間」という新しい時間の見方には、筆者の人生や社会に対するどのような姿勢やものの見方を反映しているか理解しようとする。(読む能力)(関心・意欲・態度) 初発の理解がどの程度であったか、また学習を通して理解がどの程度深まったかを確認する。(知識・理解)</p> | | |
| | 学 習 活 動 | 指導上の留意点 | 評価規準・方法等 |
| 導 入 | <p>前時の想起</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・人間の年齢による代謝時間の違い、時間の感じ方の違いを認識する。 ・本時の学習範囲を確認する。 | <p>ノートが整理されている。</p> <p>教科書ページ確認</p> |
| 展 開 | <p>(1)形式段落 16 17 音読(指名) 以下の文意を考える(p144 L1~) 「世の中の仕組みは、ちゃんとなっています。」 「経験的に時間を感じ取り」 「それなりの配慮」 「意識的に時間が違うと考えるのは、また別のことです。」</p> <p>(2)形式段落 18 音読(指名) 問題点を確認し、ノートを整理する。</p> | <p>生徒との問答(挙手・指名) 問題点を整理していく。 板書 「世の中の仕組み」「配慮」が、どのように現れているか理解させる。 「意識的」との対比を押さえる。</p> <p>「子育てや教育の現場」や「老人介護」において代謝時間の定量的把握がなぜ必要なか確認させる。</p> <p>生徒との問答(指名・挙手) まとめ 板書 「年齢に合った時間があってもいい」「年齢に合った価値観が生まれてもいい」という筆者の主張の根拠を理解させる。 「老人や子どもが立つ瀬がない」という状況がなぜ起こるかを考えさせる。</p> | <p>《関心・知識・態度》 考える態度</p> <p>《読む能力》 的確な内容理解</p> <p>《話す能力》 発言のわかりやすさ 声の明朗さ</p> |
| ま と め | <p>初発のレポートを発表する。 (指名 音読) 単元レポートの完成 自己評価の記入</p> <p>次時の予告を聞く。</p> | <p>本単元を振り返る。 発表者へコメント まとめ 到達目標をもとに自己評価させる。</p> | <p>《書く能力》 初発のレポート 単元レポート 自己評価</p> |